岐阜県職業能力開発施設運営改革検討会

第２回木工芸術スクール部会　議事要旨

１　開催日時及び場所

令和元年１０月２８日（月）１３時３０分～１５時００分

木工芸術スクール　会議室

２　出席者

野尻修二座長、井端清秀委員、藤原広行委員、浦西正幸委員、片岡紀子委員、渡辺浩和委員、大家 実委員、

３　事務局

【商工労働部労働雇用課】

課長、課長補佐兼労働企画係長、課長補佐兼人材育成係長

【木工芸術スクール】

校長、訓練課長、管理調整係長

４　会議の概要

・あいさつ

・資料説明

・意見交換

５　主な意見

〇入校生の確保に向けた広報について

・パンフレットやホームページ、ＳＮＳなどは、より学校のことを伝えるための素材であるから、家具職人を育成する、高い木工技術を学べるといったところをアピールしていけば良い。

・パンフレットなどの写真のクオリティが低くて、職人の凄さ、学校の設備の良さが伝わって来ないので、少なくとも写真だけでもプロを使うべき。

・「伝統の技」であることを想起させ、また他の産地との差別化にも繋がる「飛騨の匠」というワードをもっと使えば良い。　持てるブランド力は惜しみなく活用すべき。

〇企業ニーズに基づく人材供給ができる施設への変革と学校のブランド化について

・前回の検討会では、「飛騨の匠や木工の職人を育てる」というブランディングだけで果たして良いのかと疑問を呈したが、その後、生徒や学校の先生と話をする中で、やはり職人を目指すという今のままの方向性の方が良いと思い直した。

・「技術をしっかり教える」ことを生徒も求めて来ているし、先生もそれを目指している。　また、そのための設備がこれだけ備わっているところも他にはなかなか無いのだから、これまでどおり「木工技術をしっかり教える」ことに特化させれば良い。

〇生徒の就職支援について

・学校の入り口である入校に関しては、「木工の技術を学ぶ」であったり「家具を一から作れるようになる」といった方向性が生徒の要望ともマッチしていて、実際に生徒が集まって来ているが、出口である就職に関しては、生徒の希望と就職先のマッチングがうまくいっていないようだ。

・意外に生徒は就職先の選択肢を持っておらず、学校にも飛騨のメーカー以外の木工企業の情報が不足しているが、これは進路コーディネートの部分が足りていないということ。

・従来の求人情報に頼るだけでなく、就職ガイダンスや企業説明会を開催するのか、それとも進路コーディネーターを配置するのか、いずれかの対策が必要。

⇒当面の間は、進路コーディネーターの役割を職業訓練指導員が果たさざるを得ないことから、指導員の各企業に対する情報の蓄積を増やすためにも、各企業の視察の他、現場の工場長や職長との情報交流の機会も設けて欲しい。（木工芸術スクール）

・指導員の視察については、アポイントさえ取って貰えれば各社とも全く構わないと思う。　ぜひ実施して欲しい。

・生徒の自信が無さ過ぎることが気になる。　キャリアデザインの指導ももう少し必要。

・出口に関しては、企業側にももう少し生徒に情報を提供していく姿勢が必要と感じた。

・受け入れ側の努力として、地元の関連企業の説明を一日で受けられるガイダンスを、学校の施設を借りて開催することはできないか。

・学校主催では、参加企業を絞ることが出来ないため実施が難しいとい

うのなら、飛騨木工連合会の主催で開催できないか。　木工連以外の企業の求人情報はハローワークに紹介して貰えば良い。

⇒年度内に主な企業や木工連にご相談に伺わせていただく。（木工芸術スクール）

〇カリキュラムの見直しについて

・生徒の質、スキルを今以上に高めて欲しい。　そのためには、１年の訓練だけでは十分ではないので、２年制についても検討を進めて欲しい。

・生徒に話を聞くと、授業の中にはもっと深く学びたいと思うものもあれば、これは自分には必要ないと思うものもあり、更には、作業の中で機械の待ち時間が長くて時間がもったいないという声も聞かれた。

・２年制のカリキュラムが直ぐには困難だとしても、何か所かに分かれて同時並行で行っている複数の授業から選べるような、選択性の授業を取り入れたらどうか。

⇒既に一部の授業で選択科目を取り入れており、今後も訓練の効率化を進めていく。（木工芸術スクール）